ガッテン」が今年度で終了だそうで、残念ですね。

温室効果ガス７年連続減
（12月10日読売夕刊）

日本政府の目標は 2030 年度の排出量を 2013 年比で 46％減。今年は 18.4％の削減に止まっています。これについてはコロナで経済停滞が影響しているとみて 2021 年度は増加が懸念されているということでした。

ロス五輪　28 競技決定
スケートボード、スポーツクライミング・サーフィンは採用、馬術は除外

初めての競技だったスケボー、サーフィン、クライミングは今の若者たちの興味を惹き付けて大成功でした。

Ｘゲームズ　来春千葉で開催

アクションスポーツの最高峰「Ｘゲームズ」が日本初、来年４月 22 日～24 日千葉市の**ＺＯＺＯマリンスタジアム**で開催されます。スケートボード、ＢＭＸ、モトエックスの３競技が行われます。1995 年に米国で始まったＸゲームズ。世界 200 か国でテレビ放送されます。

ドラゴンへの階段　第㉜回

（連載エッセイ版）「教わる毎日」　佐藤　洋祐

皆さん、こんにちは！さあ、今月で２０２１年が終わり、新しい年がやってきますね。年の代わり目という、時の流れにおける「節目」は、そこで何かが物理的に変わるものではありませんが、自分をそして自分をとりまく世界を見つめ直すのには良いきっかけになります。まだ残す日にちはありますが、私にとっての２０２１年が主にどんなものだったかを振り返って、ここに記させていただきますね。

私にとって今年の一番大きな環境の変化は、４月から専門学校で音楽を教え始めたことでした。頻繁に演奏を共にしていた仕事仲間の紹介で始まった「教鞭をとる」仕事ですが、そこで関わる生徒たちや講師の先生方との価値観や人生のバックグラウンドの違いに多く直面することで、これまで私が得ていた人間関係がかなりの度合で「ジャズの演奏」というものだけに偏っていたことを感じさせてくれました。その関係が国内でのものか、海外においてかを問わず。

教えることに関して言えば、これまでにも私から音楽を学びたい、と集まってくださった生徒たちは数多くいらっしゃいましたが、彼らはいずれも、少なからず私の音楽や演奏に共感し、そこから何かを吸収したいと集まってくださった方々ですから、音楽に関する美意識やこれまでの蓄積に私と似通ったものがある方たちだったのですね。ですが、専門学校の生徒たちは、私の事など知らない方ばかりでした。そして講師の先生方の中には、ジャズという表現を最良とは思わない方々も多いことがわかりました。その時、自分が何も語る必要のない前提として全ての思考のスタート地点にしていたものが必ずしもここでのコミュニケーションにおいては共通事項でないという苛立ちをこれまでにないほど覚えた事は否めません。何とかして「自分が正しい」と、戦おうとする自分がいたことを、今となっては回想できます。

つまり、私はある時点で、彼らと自分との違いを自分なりに受け入れることができました。私と違う感性に触れたなら、その違いが大きければ大きいほど、相手を尊重し、その存在、その価値観を認めること、時には互いの距離を確保したり、遠くから待ってさし上げることが、誰でもない私の心を安らかにしてくれることを学べたのかな、と振り返っています。そうすると、彼らから実に多くの学びが得られること、引いては自分自身のことが客観的に見えてくること、これまで近しすぎるがゆえに難しかった家族、友人、仕事仲間、同業者などに対する、色眼鏡を通さない、ありのままの形での理解ができるようになったと感じています。

「教鞭をとる」仕事は結果的に「教わる」ことでした。

このようなことから、自分が何か変わりたい、新しく学びたいと思うのであれば、環境を変えるということが有効であること、そしてその環境を変える、ということは、何も自分が別の所に移住したり、新しい世界に飛び込んでみたりするだけが手段ではなくて、自分の考え方、視点を変え、すぐにでもできることから行動に移してみることでもそれが得られることも分かりました。

このような大事なことを教わり、２０２１年の残る日にちはいつも新しい学びに満ちています。これまで当たり前だった人間関係も、まるで「一期一会」の言葉そのものに新鮮なものだな、と感じながら、月一度の合唱の練習から感慨に耽りながら帰路につく私でした。

挿絵ＴＡＫＡＫＯ

佐藤　洋祐（サトウ　ヨウスケ）
ジャズミュージシャン。サックス奏者としてグラミー賞を２度受賞。２０１５年末より佐倉市在住。２０１９年よりシンガーとしても活動を開始。